

# プロ野球のパフォーマンス文化についての研究

## ーコロナ禍前と現在を比較してー

本研究の目的は、プロ野球応援のコロナ禍の現在とコロナ禍前の違いを明らかにすることである。ここで言うコロナ禍の試合とは、2020年、2021年の無観客試合や観客を制限した試合のことを言う。先行研究では、コロナ禍の鳴り物が禁止されている応援と、球音を楽しむ日、メジャーリーグの応援は似たような状況だということが分かっている。しかし、それぞれがどのような違いがあるのかが分かっていない。そこで、本研究はコロナ禍前の鳴り物を使った応援と比較し、それぞれの応援の特徴や、違い、プレーにどのような影響を与えるか、実際に試合観戦をした時に撮った動画や、YouTube、文献、インターネット記事などを用いて分析した。

その結果、無観客試合とコロナ禍前の試合を比較すると、ベンチからの声の有無や、応援の有無による雰囲気の違いは明らかである。無観客試合と観客を制限した試合を比較しても、少人数の声のみの応援があるだけで、雰囲気の違いが感じられた。プレーの音を楽しむために、鳴り物応援を使わない日である「球音を楽しむ日」は、コロナ禍の試合と似ているが、声援の有無という大きな違いがある。コロナ禍の試合において一番のデメリットは、一見鳴り物応援がなくなったことのように思えるが、筆者は声援がなくなったことだと考えた。鳴り物応援がなくなり、盛り上がりには欠けるというデメリットも生じるが、様々な音が聞こえやすいというメリットもある。しかし、声援がなくなることによるメリットはないように思える。単純にファンの声援による後押しがなくなってしまうため、選手にとってはマイナスだと考えた。「球音を楽しむ日」は、メジャーリーグの応援とも共通するが、コロナ禍前の試合とコロナ禍の試合のいいとこ取りをしたような応援スタイルだと考える。『応援の人類学』の著者である高橋の指摘する応援の儀礼性に照らし合わせて考えると、応援の儀礼性の3つの要素である「演技」「音楽」「コメント」のうちの、「音楽」と「コメント」の2つの要素を失ってしまうということになり、コロナ禍の試合は、ほとんど応援の儀礼性を持たないと考えられる。また、私設応援団による統制は、鳴り物応援をしてはならない、声を出してはいけないという球場のルールによる統制に変わっているということが分かった。

コロナ禍の試合で鳴り物がなくなったことにより、意外にも、鳴り物がないことによるメリットが大きいことが明らかになった。また、メジャーリーグや、球音を楽しむ日と比較した結果、鳴り物はメリットもデメリットもあるが、声援は邪魔にもならず、選手を後押しし、球場を盛り上げるものとして必要不可欠であると考えた。どのような試合がベストなのか考えたときに、筆者は、通常時に鳴り物を禁止し、声は自由に出して良いことと

する。そして、チャンス時に鳴り物を解禁し、盛り上げるのが最も良いのではないかと考えた。